

グニスマジャパンの2強である。

大傾向

活発に

ことを日本に知らしめた
——など各社の色を打ち出した展開を進めている。

昨年は日本健康・栄養食品協会が主導でサプリ

メントメーカーと協力して、業界で初となる販売後調査（市販後調査）をCOQ10商品で開始した。今年以降にアンケート結果の報告が予定されている。

07年はCOQ10発見から50年が経過した年であった。それを記念して昨年11月9日～12日には国際コエンザイムQ10協会主催「第5回国際コエンザイムQ10カンファレンス」(神戸学院大学ホー

トアイランドキャンパス)が盛大に企画され、COQ10の発見者であるクレイン博士(Dr. Fredrick Crane)ら、世界的権威が多数来日し、コエンザイム復活の年となった。

今年も国際協会の支部である日本コエンザイムQ10協会が、1月25日に第5回研究会を東京都八王子市の東京工科大学で予定している。今年もCOQ10の動向に目が離せない。

勝負の年のアガリクス

真の復活果たせるか？

今年のアガリクス市場は「真の復活」が成されるか否か、まさに「勝負の年」となるであろう。

補完代替医療の分野で根強い支持を得て、一時期は300億円を越す市場を形成したアガリクス製品。一昨年2月の厚生労働省より一部製品に対

する発がんプロモーション作用の指摘により、市場は致命的な打撃を受けた。

しかし昨年下半年から健康食品・医薬品・化粧品等の総合販売サイト「ケンコム」において、日本食薬工業から販売されている「ヒメマツタケ多

糖体顆粒A B P S」やエス・エス・アイが販売する「仙生露顆粒、ゴールド」がそれぞれ4位と7位の登場するなど販売量の回復が目に見える形で現れはじめてきた。

また日本補完代替医療学会や日本薬学会などの学術界では、アガリクス

の機能研究が進展し「患者のQOL向上への寄与に有用な素材」として再び注目を集めている。

さらにはアガリクス製品の安全性に疑問を投げ掛けた厚生労働省も新たな研究班を設け、その安全性および有効性について再検討を開始するなど新局面を迎えている。

アガリクスの安全性に関する自主安全基準の策定や行政との折衝を行っているアガリクス・ブラゼイ協議会は、「市場全体の底上げが進みつつあり、市場は現在150億円前後まで回復してきているのではないか」と分析。

実際に商品を購入する消費者は、過去の風評を受けていない新規ユーザーが多く見られ、各社の販売を後押ししている。

このように業界団体による安全規格の策定と行政による安全性・有効性の保証によって「アガリクスの名誉回復」が図られることが期待されている。